



# 旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校  
学校だより 9月号

平成29年9月1日発行

発行責任者：野田 豊



## 実りの秋

校長 野田 豊

( 8/30 ラジオ体操 )

今年の夏は、低気温と梅雨のような前線の停滞に悩まされどうなることやらと心配しましたが、9月が近付くにつれ高気圧が元気を取り戻し、ようやく夏らしいじりじりとした陽射しと蒸し暑い熱帯夜が戻ってきました。それでも、空を行く雲やコロコロと囁く虫の音は夏の終わりとともに秋の気配を感じさせます。さて、長い夏休みも終わり、たくましさを増した子供たちの歓声が学校に戻ってきました。楽しかった思い出とともに苦労したこともあったことかと思いますが、それらの一つ一つの経験は確かな成長の糧となっていくものと信じています。

☆

さて、いよいよ2学期がスタートしました。1学期はその学年の基礎や土台を作る時期で2学期はその基礎の上に目に見える建物（個々における学力や体力等の生きる力、集団や組織としてのまとまりや活力）を築きあげる期間といえます。それは、春に植えられた頼りなく細々とした稲の苗が、過酷な夏の間根を張り穂を伸ばして秋に黄金色の実を結ばせる姿にも合致しているように思います。そこで、全ての子供たちが本来備えている生きる力、伸びる力を引き出し、個性や能力を存分に花開かせるために私たち大人が心したいのは、焦らないこと、手をかけすぎないこと、あきらめないことではないかと考えています。

植物によって開花の時期がそれぞれ違うように一人一人の子供も伸びる時期や歩む早さに違いがあります。他と比べて焦ることは禁物です。小さな変化や成長を見逃さず、タイミングよく励ましたり褒めたりして温かな見守りをしていきたいものです。

また、水や肥料のやり過ぎはかえって植物の成長の妨げになります。温室栽培の野菜よりも露地栽培の野菜の方が味や香りが強いと言われます。子供に過剰な期待をかけることや過保護、過干渉は自立を妨げ、人格形成を阻害する恐れがあります。手をかけるべきこと、手を出さずに任せることを賢明に見分けて行くことが大切です。

そして、愛情をもってかかわり続ける（折れない心）も必要です。人を育てるのに一つのやり方がうまくいったからどの子供にも通用するということはなかなかありません。うまくいかなければ、その原因を考え、悩み、あれやこれやと試行錯誤しながらも個性や特性に応じた支援を見つけ出ししていくことが大切だと考えます。子供とともに大人も育っていくのだと思います。

☆

2学期は、運動会、80周年記念集会、音楽会、80周年記念式典、旭小フェスティバルと毎月のように学校行事や大きな集会在計画されています。その一つ一つの取組を成長のジャンプ台と捉え、日々の学習や練習の充実に向けていきます。2学期の終わりには、子供自身が自分の成長を実感でき、保護者や地域の皆様の目にも成長の姿が映るよう教職員一丸となって努力してまいります。どうぞ、ご期待ください。